



10月 園だより

令和4年10月
段原みみょう保育園

1歳児たちは、エリック＝カールの『できるかな？あたまからつまさきまで』という絵本が大好きです。その絵本は様々な動物が、「きみはできるかな？」と読み手を誘いながら、体のあちらこちらを動かすお話で、ページをめくるごとに大きく描かれた違う動物が登場し、カラフルな色づかいも素晴らしい絵本です。K君にとっては、この絵本がどんな絵本よりも、どんなあそびよりも魅力的なようで、この絵本を手にとると、この上ない笑みを浮かべながら、1ページずつめくり、首を回したり、背中を丸めて見たり、肩を上げ下げしたり…これを毎日まいにち、数えきれないほど繰り返しています。動物たちの誘いどおり、自在に自分の体を動かせるようになったことが嬉しくて仕方ないのでしょうか。

人は、楽しい、好きだからこそ、夢中になり、根気よく取り組みます。そしてとことんできるからこそ、充実感・満足感を感じます。子どもたちを見ていると、夢中になるものは違えど、あそびの中で、どんな心が育っているなということが伝わってきます。

しあわせの根っこ

さて、お父さん、お母さんは、お子さんにどんな人に育ってほしいと願っておられますか。思いやりのある人？自立した生きる力を持つ人？前向きに挑戦していく人？何でも知っている知識人？…理想はいっぱいあると思いますが、大きくまとめると、「幸せ」になってほしいといことではないでしょうか。では、人の「幸せ」の土台、根っこはいつから、どのように育まれていくのでしょうか。

生まれて間もない赤ちゃんでも、心地よいか、不快か、やさしいか、怖いか、愛されているか、愛されていないかなどという雰囲気や全身で受け止め、「感じる」ことができると言われています。0歳の時から、この「感じる」ことを積み重ね、そして様々な体験やあそびの中で、心が育ち、人となりや形成されていきます。だからこそ、乳幼児期の大人の子どもを大切に思う愛情ある関わり（スキンシップ）、は本当に重要で、ここが一番の土台、根っこになります。お子さんが泣いていれば、抱っこして（抱きしめて）あげてください。お子さんが機嫌が悪い時、テレビやスマホで気分転換をさせるのではなく、お子さんが思っていること、求めていることに向き合い、こたえてあげましょう。お父さん、お母さんにとっては、仕事、家事、子育ての大変さに加え、ここ数年はコロナへの不安も加わり、ストレスがたまる日々を過ごされていることと思いますが、お風呂に入った時や就寝前などを利用し、「あなたのことを本当に大切に思っているよ。」という思いをスキンシップとともにしっかりと伝えてあげましょう。愛情ある関わりが十分であれば、子どもの気持ちも落ち着いて安定し、子育ての大変さも軽減され、育児も楽しくなってくるのではないのでしょうか。また保育園に来て、楽しいことに夢中になれることでしょう。それが「幸せ」の第一歩ですね。

春は、初めて会った保育者と信頼関係を築き、園環境にも慣れ、夏は、心も身体ものびのびと過ごし、そして一年で一番、あそびが深まっていく秋を迎えました。幼児クラスでは、これまで体験した印象に残ったこと、興味があることなどを話し、それをもとにごっこあそびや造形活動が広がりを見せています。今後はさらに友だち同士で、意見を出し合ったり、役割分担などしながら、自分たちで考えて進めていく姿が見られるでしょう。11月には、幼児クラスを中心にあそび展を開催しますが、来月の園だよりでは、子どもたちが日々、どんなことにおもしろさを感じ、夢中になったのか、その中で、どんな力を培ってきたのかをお伝えできればと思います。

園長